

XenServer 7.3リリースノート

XenServer 7.3へようこそ。このドキュメントでは、XenServer 7.3の重要な情報について説明します。

XenServer 7.3は、最新リリース(CR)です。最新リリースモデルでは、お客様が新しい機能をいち早く利用できます。長期サービスリリース(XenServer 7.1 LTSR)と異なり、このリリースでは、XenServerで設定された機能の安定性が保証されています。

XenServer 7.3には、以下の2種類の商用エディションが用意されています。

- Standard Edition
- Enterprise Edition

注:ライセンスが適用されていない¹状態のXenServerを使用することによって、利用が制限される機能セットが追加されました。XenServer 7.3に移行する前に、[ライセンス管理](#)セクションで、どの機能にライセンスが必要かをご確認ください。

XenServer 7.3は[XenServerの製品ダウンロードページ](#)から入手できます。

XenServer 7.3で追加および強化された機能

XenServer 7.3では、アプリケーション、デスクトップ、サーバー仮想化に使用できる機能が強化されました。XenApp/XenDesktopのライセンスを持つお客様は、XenServer 7.3のすべての機能をご利用いただけます。

Citrix Directorの統合

Citrix Directorバージョン7.16以降を使用して、XenServerでホストされているサーバーおよびデスクトップOSマシンにアクセスできるようになりました。これによって、XenAppおよびXenDesktopユーザーは、XenServerがホストするVDAの問題を解決するためにXenCenterを使用する必要がなくなりました。

詳しくは、Directorのドキュメントを参照してください。

- https://docs.citrix.com/en-us/xenapp-and-xendesktop/current-release/director/trouble-shoot-machines.html#machine_console

¹ XenServerプールのライセンスを有効にするには、プールのすべてのホストがソケットライセンスの対象になっているか、またはXenApp/XenDesktop権限が付与されている必要があります。

Bromiumによるセキュリティの強化 Enterprise Edition

XenServerで実行されているWindows仮想マシンで、Bromium Secure Platformを使用できるようになりました。

Bromium Secure Platformは、あらゆる高度なマルウェアからエンドポイントを保護します。この保護はエンドユーザーにとってわかりやすく、ユーザーの操作性やシステムのパフォーマンスを邪魔することはありません。Bromiumによるセキュリティの強化について詳しくは、[Bromium社のWebサイト](#)を参照してください。

XenCenter: ホスト状態の表示

XenCenterの機能向上により、XenServerホストやプールでライセンスやパッチの状態をより簡単に表示できるようになりました。

ホストやプールのタイトルバーで、使用しているホストやプールのライセンス状態を表示できます。ツリー表示では、ライセンス対象外のプールがアイコンで表示されます。

[アップデート]タブでは、利用可能なアップデートを表示し、サーバーごとに絞り込むことができます。これによって、すべてのホストやプールのパッチの状態を容易に確認できます。

新しいゲストオペレーティングシステムのサポート

XenServerは、次のLinuxゲストテンプレートもサポートするようになりました。

- Asianux Server 4.5 (64ビット)
- Asianux Server 4.4 (64ビット)
- Asianux Server 4.2 (64ビット)
- GreatTurbo Enterprise Server 12.2 (64ビット)
- Linx Linux V6.0 (64ビット)
- Linx Linux V8.0 (64ビット)
- Yinhe Kylin 4.0 (64ビット)
- NeoKylin Linux OS V5.0 (64ビット)
- Debian Stretch 9.0
- RedHat Enterprise Linux 7.4
- Oracle Linux 7.4
- Scientific Linux 7.4
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2 (PVのみ)
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (PVのみ)
- SUSE Linux Enterprise Desktop 12 SP2 (PVのみ)
- SUSE Linux Enterprise Desktop 12 SP3 (PVのみ)

XenDesktopタブレットモードの有効化 Enterprise Edition

XenServerおよびXenDesktopは、仮想化環境でWindows 10 Continuumエクスペリエンスを有効にできる唯一のデスクトップ仮想化ソリューションです。

Enterprise機能は、XenServer Enterprise Editionのお客様、またはXenApp/XenDesktop権限によりXenServerにアクセスするお客様が使用できます。XenServerの各エディションおよびエディション間のアップグレードについては、[Citrix Webサイト](#)を参照してください。

XenServerとXenDesktop 7.14以降を組み合わせることで、タブレットモードを使用できます。

XenDesktopタブレットモードを有効にする方法について詳しくは、[XenApp/XenDesktopのドキュメント](#)を参照してください。

変更ブロック追跡^{Enterprise Edition}

変更ブロック追跡は、サードパーティ製ソフトウェアベンダーが、迅速かつ効率的に増分バックアップソリューションを開発できるようにするための機能とAPIのセットです。

変更ブロック追跡によって、大容量のVDIを処理して格納する代わりに、容量を節約できる効率的なメタデータのためのスナップショットファイルを格納するため、必要な空き領域を削減できます。

VLANタグ付け

XenServerは、管理インターフェイスおよびストレージインターフェイスでVLANタグ付けをサポートします。VLANネットワーク上で通信するためのXenServerホストのプールを作成できます。

また、タグ付きVLAN上の管理インターフェイスでXenServerホストをアップグレードしたり新規インストールを実行したりできます。これによってタグ付きVLANネットワーク上でXenServerホスト管理インターフェイスをプロビジョニングしたり、同じネットワーク上のホストにアクセスできます。

IPv4マルチキャストでのIGMPスヌーピングのサポート^{Enterprise Edition}

IPv4マルチキャストを使用することで、IGMPプロトコルによって構築されたマルチキャストグループのメンバーである仮想マシンにデータを送信できます。

この機能を有効にすると、マルチキャストトラフィックがすべてのゲスト仮想マシンに送信され、想定外のパケットを処理することで発生する、ホストデバイスへの不必要な負荷を回避できます。代わりに、マルチキャストトラフィックがXenServerホストに到達すると、XenServerはこのトラフィックのグループを検出して、このグループにサブスクリブしている仮想マシンに転送します。

この機能によってマルチキャストのパフォーマンスが向上するため、IPTVのように帯域幅を大幅に消費するIPマルチキャストアプリケーションで特に有効です。

ISOストレージリポジトリでのSMBバージョン3のサポート

XenServerは、SMBバージョン3.0をISOストレージリポジトリに接続するデフォルトの方法としてサポートするようになりました。SMBバージョン3.0は、SMBバージョン1.0よりも安全で堅牢です。

SMBバージョン1.0は、引き続きサポートされているため、バージョン3.0が利用できない場合、XenServerはバージョン1.0でフォールバックすることができます。SMBバージョン1.0では、CLIを使用してISOストレージリポジトリをマウントできます。詳しくは、『[XenServer 7.3管理者ガイド](#)』を参照してください。

ただし、可能な限りSMBバージョン3.0を使用することをお勧めします。

Enterprise機能は、XenServer Enterprise Editionのお客様、またはXenApp/XenDesktop権限によりXenServerにアクセスするお客様が使用できます。XenServerの各エディションおよびエディション間のアップグレードについては、[Citrix Webサイト](#)を参照してください。

メールパフォーマンスアラートの言語対応

XenCenter 7.3では、受信するパフォーマンスアラートメールの言語を選択できるようになりました。利用可能な言語は、日本語、英語、中国語です。

BIOSアセットタグ

xe CLIまたはAPIを使用して、仮想マシンごとにBIOSアセットタグを指定できるようになりました。これによって、アセットの追跡が容易になり、管理やライセンス管理がよりスムーズになります。

インストールオプション

XenServer 7.3は、XenServerの製品ダウンロードページから次のパッケージで入手できます。

- XenServer 7.3アップデートISO。このファイルを使用して、既存のXenServer 7.2 CRをアップデートします。
- XenServer 7.3基本インストールISO。このファイルを使用して、XenServer 7.3を新しくインストールするか、XenServer 6.2、6.5、7.0、または7.1累積更新プログラム(CU)1からアップグレードします。

注意:ホストのアップデートにXenCenterを使用する場合、アップデート前にXenCenterをXenServer 7.3ダウンロードページにある最新バージョンにアップデートしてください。

次の表は、XenServerの既存のバージョンからXenServer 7.3に移行する時に利用できるオプションです。

インストール済みバージョン	XenServer 7.3アップデートISOを使用したアップデート	XenServer 7.3基本インストールISOを使用したアップグレード
XenServer 7.2	可能	なし
XenServer 7.1 CU 1	なし	可能
XenServer 7.0	なし	可能
XenServer 6.5	なし	可能
XenServer 6.2	なし	可能

CU 1が適用されていないXenServer 7.1からのアップグレードはサポートされていません。XenServer 7.1を最新の累積更新プログラム(CU)にアップデートしてから、XenServer 7.3にアップグレードしてください。

インストールを開始する前に、『[XenServer 7.3 CU1インストールガイド](#)』で説明されているインストール手順、およびシステム要件を確認してください。

長期サービスリリース(LTSR)から最新リリース(CR)への変更

XenServer LTSRを実行していて、新機能を利用したい場合、XenServer最新リリース(CR)ストリームに変更することもできます。CRストリームからXenServerバージョンを使用する場合、継続してサポートを利用するためには、定期的に新しいCRを選択する必要があります。

XenServer 7.1 CU 1 LTSRからアップグレードして、この最新リリースに移行してください。

Enterprise機能は、XenServer Enterprise Editionのお客様、またはXenApp/XenDesktop権限によりXenServerにアクセスするお客様が使用できます。XenServerの各エディションおよびエディション間のアップグレードについては、[Citrix Webサイト](#)を参照してください。

最新リリース(CR)から長期サービスリリース(LTSR)への変更

XenServer CRを実行しているユーザーが、保証済みの安定した機能セットが搭載されたXenServerのバージョンに移行したい場合、XenServer LTSRに変更できます。最新のXenServer LTSRはXenServerの製品ダウンロードページから入手できます。

XenServer 7.1 CU 1 LTSRの新規インストールを作成して最新のLTSRに移行してください。

LTSRとCRについて詳しくは、[XenApp、XenDesktop、XenServerサービスのオプション](#) (英語)を参照してください。

ライセンス管理

ライセンスが適用されていない状態のXenServer 7.3を使用すると、Citrixのサポートや保守を利用できなくなります。

また、次の機能も制限され、ライセンスが必要になりました。

- 3台以上のホストのプール²
- 高可用性
- 動的メモリ制御
- ストレージモーション
- 役割に基づいたアクセス制御
- GPUパススルー
- Site Recovery Manager
- Active Directoryの統合
- プールのローリングアップグレード

XenServerはトライアルライセンスで試用できます。詳しくは、「[Getting started with XenServer](#)」を参照してください。

XenServer 7.3のライセンスが必要な機能を使用するには、顧客がCitrixライセンスサーバーをバージョン11.14以上にアップグレードする必要があります。

XenServer 7.3のライセンスについて詳しくは、『[XenServer 7.3 Licensing FAQ](#)』(英語)を参照してください。

Citrix製品との互換性

XenServer 7.3は、Citrix XenAppおよびXenDesktop 7.15(LTSR)および7.16と相互運用可能です。

XenServer 7.3は、Citrix PVS 7.15および7.16と相互運用可能です。

ローカライズのサポート

このリリースでは、XenCenterの日本語および簡体字中国語バージョンも使用できます。

² 既存のプールに3台以上のホストがある場合、プールに新規ホストを追加しない限りこの制限の影響を受けません。

Enterprise機能は、XenServer Enterprise Editionのお客様、またはXenApp/XenDesktop権限によりXenServerにアクセスするお客様が使用できます。XenServerの各エディションおよびエディション間のアップグレードについては、[Citrix Webサイト](#)を参照してください。

製品ドキュメント

XenServer 7.3の製品ドキュメントは、[XenServer 7.3製品ドキュメント](#)を参照してください。XenServerに関するよくある質問と回答については、『[XenServer 7.3 Technical FAQ](#)』（英語）を参照してください。

製品に付属のドキュメントは、必要に応じて改訂される場合があります。[Citrix製品ドキュメント](#)の「[XenServer 7.3](#)」ページで、最新のドキュメントを定期的にチェックすることをお勧めします。

既知の問題と考慮事項

次のセクションでは、このリリースの既知の問題とその対応策、およびそのほかの考慮事項について説明します。

全般

- ESXiサーバーからXenServerにWindows仮想マシンをインポートすると、IPv4/IPv6ネットワークの設定が失われることがあります。ネットワーク設定を保持するには、変換を完了した後、IPv4/IPv6設定を再構成します。
- Intel Xeon 81xx/61xx/51xx/41xx/31xx CPUをベースにしたシステムの場合、XenServerをレガシーブートモードではなくUEFIブートモードで実行することを強くお勧めします。
- 仮想マシンの実行中にプールのCPU機能セットが変更された場合（たとえば、新しいホストが既存のプールに追加された場合や、仮想マシンが別のプールのホストに移行された場合）、仮想マシンは起動時に適用された機能セットを使用し続けます。プールの新しい機能セットを使用するように仮想マシンをアップデートするには、仮想マシンの電源をオフしてから起動する必要があります。XenCenterで[再起動]のクリックなどによって仮想マシンを再起動しても、仮想マシンの機能セットはアップデートされません。
- プール間でコンテナ管理仮想マシンを移行すると、コンテナ管理機能は仮想マシンに対する動作を停止します。これは、コンテナ管理がプール固有のキーを使用して実装されているため起こります。この問題を解決するには、新しいプールで、「コンテナ管理」の仮想マシンごとの準備手順を繰り返す必要があります。以下の点に注意してください。
 - CoreOSでは、仮想マシンの基本設定で構成ドライブの構成を変更して、クラウド構成ドライブをアップデートする必要があります。
 - RHEL/CentOS/OL 7およびUbuntuでは、`xscontainer-prepare-vm`を再実行する必要があります。準備手順を繰り返した場合でも、古いXenServerプールが引き続き仮想マシンにアクセスできる場合があることに注意してください。
- コンテナの名前を変更しても、コンテナ管理ビューのアップデートはトリガーされません。また、Ubuntu 14.04では、XenCenter外部からコンテナを一時停止または一時停止解除しても、ビューのアップデートがトリガーされることはありません。つまり、XenServerでは、現在の（名前変更/一時停止/一時停止解除された）コンテナの状態が表示されない場合があります。この根本原因は、ビューがDockerイベント通知によってのみ更新されることです。回避策として、同じ仮想マシンで実行されている無関係なコンテナでアクション（開始や停止など）を実行することで、手動で更新をトリガーできます。

Enterprise機能は、XenServer Enterprise Editionのお客様、またはXenApp/XenDesktop権限によりXenServerにアクセスするお客様が使用できます。XenServerの各エディションおよびエディション間のアップグレードについては、[Citrix Webサイト](#)を参照してください。

- コントロールドメイン (Dom0) に 32GB を超えるメモリを割り当てないでください。(特に起動時に) 断続的に仮想マシンがフリーズすることがあります。
- 高可用性 (HA) でハートビートストレージリポジトリをセットアップする場合、チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP: Challenge Handshake Authentication Protocol) を使用して認証すると SMB または iSCSI のどちらかを使用できません。

インストール

- サーバーの「ローカルストレージ」ストレージリポジトリを使用して、仮想マシンで XenServer 6.5 以前から XenServer 7.2 にアップグレードしたことがある場合、またはディスクにベンダーのユーティリティパーティションがある場合、レガシーディスクレイアウトを使用していることとなります。レガシーディスクレイアウトを使用しているということは、コントロールドメインの空き領域が現在のレイアウトより大幅に少ない (4GB 対 18GB) ことを意味します。XenServer 7.3 のアップデートを XenServer 7.2 のインストールに適用すると、次のエラーメッセージが表示されます。「必要な空き領域がサーバーにありません。」これは、XenServer 7.3 のアップデートではディスクがフルになるのを避けるために十分な空き領域が必要であり、レガシーレイアウトはこれに対応していないためです。このエラーが表示された場合、XenServer 7.3 をアップデートできないため、新規インストールを実行する必要があります。

国際化

- ホストコンソールでは、日本語などの非 ASCII 文字を使用することはできません。
- XenServer のルートパスワードには非 ASCII 文字を使用することはできません。

ハードウェアの互換性

- XenServer [ハードウェア互換性一覧 \(HCL\)](#) で、ハードウェアの互換性についての最新情報を確認してください。

ストレージ

- Nutanix ストレージリポジトリを使用すると、その後 HA を再有効化しても、HA を無効化した後に残る 2 つの VDI (以前に HA ステートファイルおよびプールメタデータに対して使用) は再利用されません。お客様がこれらの VDI を削除しても安全です。
- Microsoft iSCSI Software Target Version 3.2 または 3.3 で提供されているストレージには接続できません。ただし、Windows Server 2012 以降に付属の iSCSI Target Server で提供されているストレージには接続できます。

ネットワーク

- 場合によっては、ソフトウェア FCoE スタックを使用して FCoE SAN から XenServer ホストをブートすると、ホストの初期化フェーズで一時的にリンクが切断されるためにホストが無応答になることがあります。ホストが長い間無応答に見える場合、ホストを再起動してこの問題を解消してください。
- XenServer では、FCoE SR で使用される NIC をアンプラグすることはできません。

Enterprise 機能は、XenServer Enterprise Edition のお客様、または XenApp/XenDesktop 権限により XenServer にアクセスするお客様が使用できます。XenServer の各エディションおよびエディション間のアップグレードについては、[Citrix Web サイト](#) を参照してください。

XenCenter

- XenCenterを実行するコンピューター上でフォントサイズや画面解像度を変更すると、ユーザーインターフェイスの表示が乱れる場合があります。デフォルトのフォントサイズは96 DPIです (Windows 8とWindows 10では[100%]に相当します)。

ゲスト

- XenServerで新しいハードウェアセキュリティ機能を使用すると、32ビットPV仮想マシンの全体的なパフォーマンスが低下することがあります。この問題の影響を受けるお客様は、次のいずれかを実行できます。
 - PV Linux仮想マシンの64ビットバージョンを実行する。または、
 - no-smep no-smapオプションを付加してXenをブートする。ホストのセキュリティ深度が浅くなることもあるため、これらのオプションはお勧めしません。
- 一定期間(通常は10分)非アクティブ状態が続くと、HVM Linuxゲストのコンソール画面に何も表示されなくなることがあります。この問題を回避するには、ゲストのカーネル起動パラメーターにconsoleblank=0を追加します。カーネル起動パラメーターのアップデートについては、ゲストOSのドキュメントを参照してください。

Citrixについて

Citrix (NASDAQ: CTXS) は、ソフトウェア定義ワークスペースへの移行を先導し、仮想化、モビリティ管理、ネットワーキング、およびSaaSソリューションを統合して、ビジネスの新たな方向性やユーザーがより働きやすい環境を実現します。Citrixのソリューションは、デバイス、ネットワークやクラウドに関係なく、アプリケーション、デスクトップ、データ、コミュニケーションをユーザーが即座に利用できるセキュアなモバイルワークスペースの提供を通して、ビジネスモビリティを推進します。Citrixの2015年度の年間売上高は32.8億ドルで、そのソリューションは世界中の40万以上の組織において1億人以上の人々に利用されています。詳しくは、www.citrix.co.jpを参照してください。

このレポートおよびそのほかの著作物、ならびに本契約の下での作業の実施にあたり作成、着想、創作、発見、発明または実用化される成果物の著作権は、Citrixが単独かつ完全に有し続けるものとします。なお、お客様には、本契約に基づく内部配布および使用を目的に、この著作権に対する全世界での、非独占的な権利が許諾されます。本契約は、Citrix製品のライセンスを付与するものではありません。Citrix製品には個別のライセンスが必要です。Citrixは、一般に認められた業界標準および手続きにより専門的かつ合理的な方法でサービスが履行されることを保証します。本保証の違反に対するお客様の唯一の救済方法は、Citrixによる当該サービスの適時再履行に限られます。上記の保証は唯一かつ排他的なものであり、明示的、黙示的、法定を問わず、本契約の下で提供されるサービスまたは製品や、本契約の下で開発または提供されるプロセスまたは素材の性能やそれらから得られる結果に関する、商品性、特定目的への適合性、または権利侵害に対するすべての黙示の保証に代わるものとなります。Citrixがお客様に提供したすべてのサービスに対する責任は、お客様が実際に支払った金額を上限とします。いかなる場合においても、付随的、二次的、間接的、または懲罰的な損害(収益の減損を含むがこれに限らない)に対して、契約違反、不法行為、または厳格責任によるかどうかにかかわらず、本契約の一方の当事者は相手方当事者に対し責任を負わないものとします。本契約に関する紛争は、アメリカ合衆国フロリダ州法に準拠するものとします。

サードパーティサイトへのリンク。これらのリリースノートには、Citrix以外の組織により管理されるWebサイトのリンクが含まれている場合があります。Citrixは、これらのサードパーティのWebサイトの内容や使用方法について、いかなる責任も保証または受諾しないものとします。これらのリンクはお客様の利便性のために提供されており、これらのWebサイトへのCitrixの保証を示すものではありません。お客様の責任の下で、お客様が使用するWebサイトにコンピューターウイルスやその他の破壊的な問題がないことを確認してください。

© 1999–2017 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Citrix、およびXenは、Citrix Systems, Inc.の登録商標です。XenServer、およびXenCenterは、Citrix Systems, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

そのほかのすべての製品名、社名、マーク、ロゴ、およびシンボルは、該当する各社の財産です。

851 West Cypress Creek Road
Fort Lauderdale, FL 33099
954-267-3000
www.citrix.com

Enterprise機能は、XenServer Enterprise Editionのお客様、またはXenApp/XenDesktop権限によりXenServerにアクセスするお客様が使用できます。XenServerの各エディションおよびエディション間のアップグレードについては、[Citrix Webサイト](#)を参照してください。